

令和元年度 第2回子ども・子育て専門分科会における主な意見一覧

No.	区分	委員によるご意見
1	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(岩田委員) 資料2のp.37「①育児教室等の推進」について、「公立保育所では」と書いてあるが、私立でも実施しているのではないか。 同様に、「②地域子育て支援拠点事業」についても、「公立幼稚園では」と書いてあるが、私立でも実施しているのではないか。</p>
2	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(岩田委員) 資料2のp.38「⑥一時預かりの実施」について、「幼稚園においても…実施します」と書いてあるが、既に実施しているのではないか。 同様に、p.42「④延長・夜間・休日保育の実施」について、「私立保育所(園)において…実施します」と書いてあるが、「実施しています」と書くべきではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 「引き続き」という文言を多用することを避けるため、現在、すでに実施している事業や施策も含め、「実施します」と表現を統一しています。</p>
3	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) 参考資料として明石市の冊子などを持参した。アウトリーチ型の早期支援の重要性について紹介されているので参考にしてほしい。素案については充実した内容となっていると感じるが、市の子育て施策の充実について、いかにわかりやすくアピールするかが重要になると思う。その参考として、明石市は保育の完全無料化や里親100%プロジェクトなど子育て施策に力を入れていることをわかりやすく広報している。枚方市の施策についても、子育て世代の定住促進につながるようなPRの仕掛けを考えることも必要だと考える。</p>
4	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) 相談窓口について、SNSでの相談は電話相談と比較して敷居が低いようで、多くの相談が寄せられると聞く。 今後普及していくと考えられるので、SNSを通した子どもの相談窓口に取り組んではどうか。</p>
5	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) たとえば子ども食堂のように、地域で子育てを支える色々な取り組みがあると思うが、そういった活動を促進していくという考えは計画のどのあたりをみればよいか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) たとえば、p.21「④地域で子どもを育てる環境の整備」の「子ども食堂に取り組む団体との連携」や、「③異年齢間、世代間交流の推進」などで地域における活動の推進に関して記載しており、補助金等を通じた支援を行っていますが、引き続き、事業の効果的な周知等について検討していきたいと考えています。</p>

No.	区分	委員によるご意見
6	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) 保育の無償化のタイミングをとらえて、いろいろな質の高い保育を設定保育に加えて提供するチャンスになると思う。たとえば外国の文化を学ぶといった特色ある教育保育を行っている園を紹介し、横展開を促進するなどの取り組みがあればよいと思う。</p>
7	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(岩田委員) 資料2のp.14「①保幼こ小のネットワーク化の推進」について、「ネットワークの構築、強化を図ります」とあるが、なかなかシステム化されないことが何年も課題になっている。保幼このすべての子どもたちが、小学校へスムーズに接続できるような方法を考えてほしい。</p> <p>(安藤会長) 保幼こから小学校への連携はよく議論されるが、学童保育への連携の話が出てこない。放課後児童クラブ運営指針にも書かれているのに、保幼こや小学校の当事者の意識からも抜け落ちているのが問題ではないかと思う。 また、外国につながる子どもへの支援についても、就学前だけではなく小中高にもついても同様である。特に、保護者は言葉などの文化に馴染みにくいので、保護者に焦点を向けた配慮も必要だ。</p>
8	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(長岡委員) 外国につながる子どもについて、新生児の訪問をしている中で、最近日本語の通じない家庭が多い。以前は中国残留孤児関係者が多かったが、最近はいわゆる開発途上国のアジアの国々が多い。生まれてくる子どもは減少しているのに保育園が足りないということは、就業している母親が多くなっているということだと思うので、学童保育の問題はますます重要になると思う。</p>
9	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(岩田委員) 学童保育について、小学校とは別のものとなっているが、一つのものとするのは難しいのか。個々の保育園では、必要に応じて、学童の先生と個別に懇談して申し送りなどしている。子どものことを考えると必要なことだと思うが、もう一歩踏み込んでシステム化はできないのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：社会教育部） 情報共有の仕組みについては完全にはできていないとは言えない状況ではありますが、適宜相談しながら取り組んでいます。ご指摘のとおり、課題があることは認識しているので、今後検討していきます。</p>
10	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) 資料2のp.13「②計画的、効果的な質の向上の実践」について、研修などの取り組みは認可外保育所も対象となっているのか。認可施設と同様に取組まなければ、格差が広がってしまうのではないかと思う。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 研修などについては、認可外の施設にも声をかけて参加していただいています。また、交通事故などが起こらないようにするための現場の点検や、国からの通知の周知も、認可外保育施設を対象に実施しています。</p>

No.	区分	委員によるご意見
11	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(富岡委員) 保幼こ小の連携はうまくいっているところは、小学校が非常に頑張っていると感じる。意識の高い保育園などの場合はうまく機能するが、公立の小学校が担保できる部分が一定あると思う。計画ではどうしても幼稚園・保育園の話が多くなる傾向にあり、小学校の取り組みは目立たないが、個人的には、小学校の先生が動くということが大事だと思う。</p> <p>(安藤会長) 今回計画策定にあたり、計画の対象は「すべての子ども」ということで、就学前だけでなく、18歳未満を視野に入れて議論しようということでスタートしたが、どうしても就学前の比重が高くなってしまっているところがある。</p> <p>ひとつ安心しているのは、令和2年から国による専門学校、短大、大学の奨学金制度が導入される。学習意欲があり、入試に受かる能力もあるのに、経済的問題により大学や短大などに進学できないという問題を解消できる。こういった国の制度に関連して、枚方市が国に先駆ける施策を、すべての18歳未満を対象として発信してほしい。</p>
12	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(山本委員) 明石市のパンフレットに、離婚後の面会交流への行政のサポートが載っている。離婚に際して、当事者が冷静に子どものためになるような判断をすることが難しい場合に、行政が援助してくれるのはよいと思う。たとえば、養育費の不払いがあったときに行政が立て替える施策など、当事者にとって支えになるような施策に取り組めたらよいと思う。ハードルは高いかもしれないが、予防的などところで行政が果たす役割は大きいと感じている。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 明石市の養育費の制度などについては、明石市を視察するなど、参考にしています。申請の方法を紹介したり、本市の男女共生フロア・ウィルの女性相談の弁護士の先生に、申請書式のわからないところの相談に乗っていただく、といったことも考えています。男女共生フロア・ウィルと連携し、具体的な取り組みについて検討していきます。</p>
事後 1	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	<p>(石田副会長) 施策目標2「子どもの貧困問題に対する施策の総合的な推進」の取り組みの記載で、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の改正内容や計画（素案）中の他の記載内容と整合を図る視点から、「すべての子どもの現在及び将来が、生まれ育った環境に左右されない」主旨を明確に示すべきではないか。</p>